

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 1

事業名	道徳教育推進プロジェクト		
担当課・室・班名	指導課教育課程室	問合せ先(電話番号)	4059

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援				
基本目標	1 自己形成支援 健康と安心の確保				
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保				
事業内容	○ 千葉県教育振興基本計画で「道徳性を高める実践的人間教育の推進」を計画実現の施策の方向の一つとして掲げ、幼児期から発達の段階に応じた道徳教育を推進する。				
当初予算額(千円)	24年度	28,300	25年度	30,300	26年度
決算額(千円)	24年度	25,405	25年度		26年度
財源内訳	県単()	全額国費	県単()	全額国費	県単(○)

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の「道徳教育推進委員会」を実施した。 ・いじめを題材にした映像教材を作成・配付した。 ・県立高等学校の「道徳」を学ぶ時間で使用する道徳教育読み物教材集、「明日への扉」を作成・配付した。 ・平成24年度は、小学校5校、高等学校12校を研究校として指定し実践研究を実施した。

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳教育推進委員会」において、今後の道徳教育や発達の段階に応じた授業の在り方などについて協議することができた。 ・小・中学校の一層の充実のために、いじめを題材にした映像教材を作成・配付した。併せて、保護者等大人用の映像も作成し、保護者会や1000か所ミニ集会等で活用できるようにすることができた。 ・21編からなる、「道徳」を学ぶ時間で使用する千葉県らしさを盛り込んだ、道徳教育読み物教材集、「明日への扉」を作成・配付した。また、読み物教材集には、指導例・ワークシート等の指導資料を収録したCDを添付し、授業者がすぐに活用できるようにした。 ・平成24年度は、小学校5校、高等学校12校を研究校として、道徳の授業を公開し、実践研究を実施した。映像教材を活用した授業では、視聴した児童からは、「わかりやすい」「表情等から気持ちがわかる」等の感想や、保護者からは、「同じ映像を観ることで、家庭でもコミュニケーションが活発になった」等の報告が寄せられた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・県で作成した道徳教材の積極的な活用 ・道徳の授業の一層の充実のために、道徳教育推進教師を対象とした研修会を開催する。 ・映像教材の作成等、引き続き、発達の段階に応じた、千葉県独自の教材作成を進める。 ・道徳教育実施状況調査を行い、映像教材や読み物教材の活用状況を把握する。
--

4 委員意見

--

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 2

事業名	学校人権教育の推進		
担当課・室・班名	指導課人権教育室	問合せ先(電話番号)	4066

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援				
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保				
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上, 「多様な活動機会」の確保				
事業内容	○各学校において, より効果的な人権教育の推進及び啓発を図る。				
当初予算額(千円)	24年度	1,445	25年度	1,295	26年度
決算額(千円)	24年度	1,020	25年度		26年度
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)
			○		

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- 学校人権教育研究協議会
 - ・全体協議会1回, 地区別協議会7会場, 学校人権教育担当指導主事協議会6回, 高等学校協議会1回 推進校協議会5回
- 「学校人権教育指導資料集第33集」(3, 500部), CD-ROM(2, 000枚)を発行
- 人権教育研究指定校(県立高等学校1校: 関宿高等学校)
- 「学校人権教育の推進に関する実態調査」の実施

(2) 事業の成果

○いじめ等の人権侵害のない学校づくりと, 『自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる』具体的な態度や行動が児童生徒に身につくようにするために, 講演や研究協議等を実施した結果, 児童生徒の人権感覚の高揚が図られている。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- 研究協議会では, 地域の実情を考慮しながら現代的な課題等を取り上げ, 児童生徒の人権感覚を高めるために, より実践に結びつく研修内容となるよう, 研修形態等も含めて工夫していく必要がある。
- 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における人権教育推進のために, 研究協議会の実施や指導資料の発行を継続する。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 3

事業名	ちばっ子『学力向上』総合プラン		
担当課・室・班名	指導課学力向上室	問合せ先(電話番号)	4057

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安全の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上・「多様な活動機会」の確保					
事業内容	「授業力向上」の視点、子どもたちの学びの視点、読書活動充実と家庭学習環境づくりの視点、体験学習による意欲向上の視点、「PDCA」の視点の5つの視点に基づき、児童・生徒の学力向上を図る事業を総合的に進める。					
当初予算額(千円)	24年度	39,300	25年度	128,800	26年度	未定
決算額(千円)	24年度	27,375	25年度	-	26年度	未定
財源内訳	県単(○)		県単(○)	一般96,232	県単(○)	-
	○		-	国庫32,568	-	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

県教育振興基本計画「みんなで取り組む『教育立県』ちばプラン」に基づいて、平成23年度から「ちばっ子『学力向上』総合プラン」を策定し、県下児童・生徒の学力向上を目指している。
本プランでは、22の事業を事業内容によって、「教師カトップ」チャレンジプラン（「授業力向上」の視点）、「子どもたちの夢・チャレンジ」サポートプラン（子どもたちの学びの視点）、確かな学びの礎（いしずえ）プラン（読書活動充実と家庭学習環境づくりの視点）、興味ワクワク「体験学習」推進プラン（体験学習による意欲向上の視点）、「学力向上」検証プラン（「PDCA」の視点）の5つのプランに分類・整理し、取組内容の明確化を図っている。

(2) 事業の成果

若手教員育成推進員による地域に根差した若手教員研修事業、「魅力ある授業の達人」を活用した研究・研究会をのべ1,000回以上、11月の学力向上月間を中心に開催した「ちば『授業練磨の公開日』」に県下公立小中高等学校での授業公開など授業力向上に向けた取組を実施した。さらに国語、算数、理科において児童がつまずきやすい学習内容に対応した「学びの突破口ガイドー小学校高学年版ー」を作成し小学校に配付し、小学生の学力向上に向けた教材や資料の提供を行った。また、「ちばのやる気学習ガイド」中学3年版5教科の冊子を作成し、配付するとともに、このガイドに対応した評価問題の配信を行い、中学生の学力向上に向けた取組を実施した。読書好きな児童・生徒を育成するため、小・中・高等学校向けに「読書指導の実践事例集」を作成し、Web配信した。読書指導の充実を通して、人間性豊かな感性を育む取組を行った。「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業では、高校生が近隣の小・中学校へ出向き、学習支援を行ったり、課外活動の援助などを行い、学習意欲の向上が図られた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

「ちばっ子『学力向上』総合プラン」については、認知度の低い事業があるものの、相当の成果を上げている事業もあり、全体的に進展が図られている。
各事業については、PDCAサイクルに基づいて事業担当者による個々の事業評価を実施し、それをもとに学力向上プロジェクトチーム会議により、各視点ごとに内部評価を行う。その内部評価をもとに年度末に「学力向上推進委員会」で関係者評価を行い、本年度の事業成果を検証するとともに、次年度以降の事業の改善を図っていく。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 4

事業名	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施		
担当課・室・班名	体育課学校体育班	問合せ先(電話番号)	4108

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	児童生徒を対象に、各学校で体育や業間、昼休み等の時間楽しく集団で協力し合いながら、長縄連続跳び、みんなでリレー、連続馬跳び等の運動に取り組み、その記録を競いあい、ランキングをホームページに掲載し、運動に対する意欲を高めることで、運動の機会を増やし体力向上を図ります。					
当初予算額(千円)	24年度	20	25年度	20	26年度	
決算額(千円)	24年度	20	25年度		26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<p>参加学校 314校(9校減) 報告回数 20,627回(2,614回増) 県内公立学校の22.5%(1.3%減)の学校が取り組んだ。</p>

(2) 事業の成果

<p>参加学校数は若干減少したが、参加報告数は昨年度に比べ増加し、運動に対する意欲・機会が増え、体力向上につながったと考える。</p>

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>中学校の参加数43校(11.2%)、高等学校の参加数4校(3.1%)と参加校が少ない現状である。今後この事業がさらに生徒にとって魅力のあるものとなるよう種目と内容を見直し、検討していきたいと考える。</p>
--

4 委員意見

<p> </p>

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 5

事業名	「体力づくり推進モデル校認定事業」の実施		
担当課・室・班名	体育課学校体育班	問合せ先(電話番号)	4108

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援				
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保				
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上, 「多様な活動機会」の確保				
事業内容	児童生徒の体力向上を図ることを目指して、教科体育や学校行事、業間活動等で「特色ある体力づくり」を実践している学校を「体力づくり推進モデル校」として認定し、その特色ある取組や成果を各種研修会等で発表したり、ホームページに掲載するとともに、当該地域の学校体育拠点校として近隣校への波及、及び県内各学校における体力づくりの取組の普及・発展を図ります。				
当初予算額(千円)	24年度	0	25年度	0	26年度
決算額(千円)	24年度	0	25年度		26年度
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

小・中学校体育科主任・保健体育科主任等研修会において実践発表するとともに、推進モデル校が近隣校に特色ある体力づくりの取組みを紹介することができた。

(2) 事業の成果

教育事務所別の小・中学校体育科主任・保健体育科主任等研修会でモデル校が実践発表したり、近隣校に取組を紹介したことで、特色ある体力づくりの取組みを県内の小・中学校に広め、体力向上に寄与することができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

この事業は平成19年度にスタートし、県内すべての市町村に1校以上指定し広めるという当初の目標を達成したので、25年度末で終了するが、モデル校には継続して地域の体力向上の中心校として活躍するよう依頼していく

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 6

事業名	千葉県競技力向上推進本部事業		
担当課・室・班名	体育課競技力向上班	問合せ先(電話番号)	4104

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援				
基本目標	1 自己形成支援健康と安心の確保				
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保				
事業内容	計画的な選手の発掘・育成・強化や指導者の養成、スポーツ医・科学の活用などを行うとともに、国体で活躍した選手の能力を活用することや、千葉県国体会場地市町等と連携した強化拠点作りなど、国体で培われた土壌を活かしながら、地域スポーツ振興に資する事業				
当初予算額(千円)	24年度	200,000	25年度	200,000	26年度
決算額(千円)	24年度	199,900	25年度		26年度
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)
	○		○		

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- 「ぎふ清流国体」において、天皇杯7位(6年連続入賞)、皇后杯7位(4年連続入賞)という成績を収めました。
- 千葉県国体以降も高い競技力を恒常的に維持するため、優れた能力を持つ選手の発掘や、指導者の養成などを行い、競技団体と連携した強化活動に取り組みました。

(2) 事業の成果

- 競技力向上推進本部による長期的・計画的な事業の推進と関係団体とのスムーズな連携により、選手の育成、指導者の養成、組織の整備などが図られ、本県の競技力は向上しています。
- 国体やその他の国際大会で活躍した選手や監督等を学校や地域のスポーツクラブに派遣し、スポーツの好循環を図ることを目的とした国体選手能力活用事業を展開しました。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- この成果を一過性に終わらせることなく、しっかり引き継いで県民の活力・県勢の発展につなげていくため、国体で培われた土壌を活かし、さらに県民がスポーツに親しみ、健康で活力ある生活を送ることができるよう、競技力向上に向けた取組や地域と連携したスポーツ振興への取組を推進し、「スポーツ立県ちば」の実現に努めていく必要があります。
- 国民体育大会での継続的な入賞や、ジュニア選手の発掘・育成・強化など、競技力の恒常的な維持・発展を引き続き図ります。また、国体選手能力活用事業等をさらに活発化し、国体における成果を県内に好循環させます。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 7

事業名	千葉の食文化まるごと体験事業		
担当課・室・班名	教育庁教育振興部文化財課学芸振興室	問合せ先(電話番号)	4127

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援				
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保				
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保				
事業内容	調理体験を通して、郷土の食文化の由来や重要性について理解を深める事業を県立関宿城博物館で実施。				
当初予算額(千円)	24年度	391	25年度	391	26年度
決算額(千円)	24年度	249	25年度		26年度
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理製作体験として、「小麦まんじゅうづくり」4回(53名)と「こんにやくづくり」1回(30名) ・魚介類の採集捕獲体験として、「投網漁と川魚料理」1回(19名) ・郷土料理技術保持者育成講習会として、「高菜漬け」4回(参加40名)
--	--

(2) 事業の成果

	調理体験を通して、郷土の食文化の由来や重要性について、参加者に理解を深めていただくことができた。
--	--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

	いずれの事業も体験者のほとんどが中高齢者であり、必ずしも青少年の健全育成にはつながっていない。
--	---

4 委員意見

--	--

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 8

事業名	千葉フィールドミュージアム事業		
担当課・室・班名	教育庁教育振興部文化財課学芸振興室	問合せ先(電話番号)	4127

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保					
事業内容	山・川・海といったフィールド(現地)を「博物館」ととらえ、学びの舞台とするもので、中央博物館本館(山)、中央博物館大利根分館(川)、中央博物館分館海の博物館(海)、関宿城博物館(川)で実施する。					
当初予算額(千円)	24年度	2,003	25年度	6,490	26年度	
決算額(千円)	24年度	1,248	25年度		26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ・山のフィールドミュージアムとして「教室博物館」毎週1回実施、「観察会等」17回<中止2回参加349名>
- ・川のフィールドミュージアム(大利根分館)として「いきもの調査隊」2回<参加10名>、「いしぶみ調査隊」2回<参加8名>
- ・川のフィールドミュージアム(関宿城博物館)として「関宿城下を歩こう」6回<中止1回参加48名>、「川の歴史散歩」1回<参加20名>
- ・海のフィールドミュージアムとして、「観察会等」33回<中止1回参加665名>、「野外実習授業」21回<参加1,053名>

(2) 事業の成果

参加者に、実際に現地を観、体験していただくことにより、千葉県の多様な自然と歴史を実感していただくことができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

山あるいは海のフィールドミュージアムについては、中高齢者層の参加者も少なくないが、小学生親子などの参加者も多く、基本方策のうち、「多様な活動機会の確保」という目的は達せられているものと思われる。ただし、安全確保のため1回あたりの参加者数を絞らざるを得ず、多くの方々に対して活動機会を確保することは困難である。
また、川のフィールドミュージアムについては、いずれも参加者が中高齢者層で占められているため、青少年健全育成には必ずしもつながっていない。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 9

事業名	放課後子ども教室推進事業の子どもの居場所づくり		
担当課・室・班名	生涯学習課 学校・家庭・地域連携室	問合せ先(電話番号)	4167

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保					
事業内容	すべての子どもを対象として、安全・安心な子ども活動拠点(居場所)を設け、地域住民の参画を得て、子どもたちの勉強やスポーツ、文化活動等の取組を推進します。					
当初予算額(千円)	24年度	64,900	25年度	61,900	26年度	
決算額(千円)	24年度	61,683	25年度		26年度	
財源内訳	県単(○)	県予算:30,885	県単(○)	県予算	県単(○)	県予算
		国補助金:30,798		国補助金		国補助金

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ・実施市町は、23市町・146教室である。
- ・指導スタッフ等研修会(1回開催、97人参加)を実施した。
- ・学校支援コーディネーター研修講座(年3期開催 総計349人参加)を実施した。
- ・学校・家庭・地域の連携による「ちばっ子」育成事例集を作成し、配布した。

(2) 事業の成果

- ・指導スタッフ等研修会では、「わかりやすかった」「子どもの接し方をいろいろ教えていただいた」「今後の仕事への活力となった」などの感想から、講演の内容及び分科会討議が参加者に今後の活動に効果的であったと思われる。
- ・学校支援コーディネーター研修講座では、1期は知識・技能を高めることを、2期は取組の実際を見学して学ぶことを、3期は実践発表を行い、取組を共有することをねらいとして実施した。特に参加者の感想から、「1期でワークショップを行ったことで、コーディネーターの理解が深まった。」との声があった。また、参加人数が増加したことや参加者の満足度(アンケート集計より)が向上しており、数値からも成果を伺うことができた。また、グループによるワークショップを行ったことで、参加者のネットワークづくりの一助となった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・放課後子ども教室は、着実に教室数が増加し子どもたちの安全・安心な居場所づくりが進んできているが、実施市町村数は横ばいである。今後は、本事業についてさらに啓発を行う必要がある。
- ・実施しているどの市町村も、指導スタッフの確保が課題となっている。今後も学校と地域の連携を進めるコーディネーターや指導者に対する研修会を通して、指導者の資質向上や発掘を図る必要がある。
- ・指導者の中から具体的な活動のアイデアや指導法が知りたいとの要望があり、次年度の指導者等研修会では「子どもにとって魅力あるプログラム作り」の内容で実施し、放課後子ども教室への参加者数の向上に繋げていきたい。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 10

事業名	青少年教育施設における自然体験・生活体験活動の推進		
担当課・室・班名	生涯学習課・社会教育振興室・社会教育施設班	問合せ先(電話番号)	4070

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援				
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保				
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保				
事業内容	学校など利用団体の受入れ事業におけるプログラム指導、主催事業におけるプログラムの開発・普及や自然体験活動指導者の養成を通して、自然体験・生活体験活動の推進を図る。				
当初予算額(千円)	24年度	2,279	25年度		26年度
決算額(千円)	24年度	1,631	25年度		26年度
財源内訳	県単(○)	国費(文部科学省委託事業)	県単(○)		県単(○)

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<p>文部科学省事業を受託し、県立青少年教育施設5所において、全体指導者養成コース3回、補助指導者養成コース3回、補講1回の計7回のセミナーを実施し、全体指導者87名・補助指導者70名、合計157名の自然体験活動指導者を養成した。(目標値に対する達成度98.1% ※目標養成数=160名)</p> <p>全体指導者養成コース①(東金青年の家)10月6日～8日 全体指導者養成コース②(君津亀山少年自然の家)11月3日～4日、11月17日～18日 全体指導者養成コース③(手賀の丘少年自然の家)12月8日～9日、12月15日～16日 補助指導者養成コース①(水郷小見川少年自然の家)8月16日～17日 補助指導者養成コース②(鴨川青年の家)8月28日～29日 補助指導者養成コース③(千葉県教育会館)2月2日 補講コース(君津亀山少年自然の家)1月26日～27日</p>
--

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・養成した指導者からのアンケートにおける満足度は80%を超え、事業内容及び講師選定は概ね良好であった。 ・また、養成した指導者には、県立青少年教育施設等の指導者向け事業等に参加したり、ボランティアとして活動したりするなど、指導意欲の向上も見られた。 ・県内で活躍している講師陣と、県内各地から参加した受講生とのネットワークや受講生間のネットワークが構築され、県内における体験活動の普及体制が整備された。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、養成した指導者が活躍できる機会や、技術の維持・向上に努める研修会やOJTの機会の提供方法について検討する必要がある。 ・各県立青少年教育施設において、体験活動を推進する指導者養成事業を実施する。(平成25年度より実施)

4 委員意見

<p> </p>

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 11

事業名	週末ふれあい推進事業		
担当課・室・班名	生涯学習課・社会教育振興室・社会教育班	問合せ先(電話番号)	4070

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援				
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保				
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保				
事業内容	青少年教育施設の立地条件や機能を生かし、高齢者・親・子のふれあい体験事業を実施し、今日地域社会で欠けている異年齢集団との交流の充実を図り、人と協調する態度や、思いやりの気持ちを育むとともに併せて地域の指導者を養成する。				
当初予算額(千円)	24年度	2,900	25年度	2,900	26年度
決算額(千円)	24年度	2,900	25年度	-	26年度
財源内訳	県単(○)	施設管理運営費内 で実施(@580千円× 5)	県単(○)	施設管理運営費内 で実施(@580千円× 5)	県単(○)

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<p>平成24年度の実施状況</p> <p>(ア)実施施設(5施設) 手賀の丘少年自然の家、水郷小見川少年自然の家、君津亀山少年自然の家、東金青年の家、鴨川青年の家</p> <p>(イ)実績 5施設で65事業を実施 14,602人参加 (前年度比 280人減)</p> <p>(ウ)主な実施プログラム ・自然観察:ホタルくん・セミくんこんばんは!、森っこレンジャー ・星座観察:スターウォッチング、みんなおいでよ! プラネタリウム ・交流活動:青年の家まつり、少年自然の家まつり ・やさしいカヌー、親子でカッター&シーカヤック</p>

(2) 事業の成果

<p>参加者から、「自然体験を通じて、親子や兄弟姉妹が互いにコミュニケーションを深めました。」、「活動を通じて参加者同士の交流が深まりました。」、「地域の指導者やボランティアの協力を得て実施していくことで地域とのかかわりを持つことができました。」、「各施設とも特色を生かしたプログラムの工夫を行い内容の充実が図られました。」等の声が寄せられるなど、事業の目的を達成できた。</p>
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・各所とも事業内容の見直しを図り、時代のニーズや課題に対応した事業の展開に努めているところである。 ・地域との連携を強め、高齢者を始めとした地域人材の有効活用を図るとともに、地域指導者育成等、地域への貢献を図る。 ・事業広報を強化し、親世代や地域の指導者層の参加を募ることで、県内における体験活動の推進につなげる。

4 委員意見

<p> </p>

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 12

事業名	青少年教育施設の運営		
担当課・室・班名	生涯学習課 社会教育振興室	問合せ先(電話番号)	4070

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援				
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保				
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保				
事業内容	少年自然の家、青年の家において自然体験や生活体験などの多様な体験活動の機会を提供し、団体生活を通じて青少年の育成を図ります。				
当初予算額(千円)	24年度	446,000	25年度	447,025	26年度
決算額(千円)	24年度	462,870	25年度		26年度
財源内訳	県単(○)	青少年教育施設管	県単(○)	青少年教育施設管	県単(○)
	○	理費	○	理費	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

平成20年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	256,917人	団体数合計	2,728団体
平成21年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	271,333人	団体数合計	2,900団体
平成22年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	276,545人	団体数合計	2,873団体
平成23年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	312,759人	団体数合計	2,682団体
平成24年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	272,009人	団体数合計	3,405団体

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度から県立青少年教育施設全て(5施設)に指定管理制度を導入し、運営経費を削減しながら、民間のノウハウを生かした主催事業やプログラムの情報提供を行っている。 5所相互の交流や施設職員研修等を通して、施設相互の情報交換が図られている。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> 20年度から22年度まで利用者数が増え続けていたが、23年度以降は東日本大震災及びその後の放射線の問題の影響を受け、利用者が伸び悩んでいる施設があり、当面は22年度並みの利用者数に近づけることを目標として運営し、更に青少年の健全育成を図っていく。(* 23年度は鴨川青年の家に福島県からの避難者の方々を受け入れたことによる増加である) とくに少子化の影響とみられる利用団体個々の構成員減少を踏まえ、新たな利用団体の確保等を図っていく。 職員のスキルアップを図り、研修会への積極的な参加や資格修得を目指していく。
--

4 委員意見

--

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 13

事業名	子どもの読書活動推進事業		
担当課・室・班名	生涯学習課・社会教育振興室・社会教育班	問合せ先(電話番号)	4071

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	平成22年3月に策定された「千葉県子どもの読書活動推進計画(第二次)」に基づき、乳幼児期からの読書活動を推進し、子どもが自主的に読書に親しむことができる環境の整備を進めるため、発達段階に応じた保護者向けリーフレットの作成・配付及び研修会・講座等を実施する。					
当初予算額(千円)	24年度	1,000	25年度	1,000	26年度	
決算額(千円)	24年度	764	25年度		26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○			

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書活動啓発リーフレット「子どもに読ませたい本100選」の乳幼児向け及び小学生向けをそれぞれ3歳児及び小学校1年生の保護者に配布(各57,000部) 千葉県子どもの読書活動啓発の集い <ul style="list-style-type: none"> 5月12日 千葉県文化会館で開催 講演、事例発表 参加者155名 公立図書館と学校の連携を図るための研修会 <ul style="list-style-type: none"> 8月17日 千葉県立美術館で開催 講演、実践発表 参加者200名 乳幼児への絵本の読み聞かせボランティア養成講座 <ul style="list-style-type: none"> 10月27日 みなと温習舎で開催 講義、事例発表・実演、情報交換会 参加者45名

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書活動啓発リーフレットは、公立図書館と学校の連携を図るための研修会参加者の89.2%が配付の継続を望んでいる。また、配付を依頼している市町村教育委員会から増刷を望む声が多数あることから、家庭での読書活動の推進が図れた。 千葉県子どもの読書活動啓発の集いでは、参加者の98.4%が「満足した」と回答しており、子どもの読書活動の意義や重要性について考える機会となった。 公立図書館と学校の連携を図るための研修会では、参加者の99.4%が「今後の参考になった」と回答しており、図書館や学校における読書活動の推進が期待できる。 乳幼児への絵本の読み聞かせボランティア養成講座では、参加者の65%が「今後読み聞かせボランティアとして活動したい」と回答している。また、実際にブックスタート事業を実施する市町村の割合が増加した。(平成25年度予定88.9% 24年度より4.7ポイント増加)
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書活動啓発リーフレットは、公立図書館と学校の連携を図るための研修会参加者の47.8%に認知されていた。今後も継続して作成・配付していきにより認知率を高めていく。また、アンケート調査等により活用状況を把握し、内容の充実及び送付時に活用例を紹介するなどして、効果的な事業の推進を図る。 研修会・講座等においては、目的の達成及び実績を高めるため、プログラム及び事前の広報活動を充実させる。また、参加者の情報交換や交流を深める時間を設定し、ネットワークの構築を図る。 ブックスタート事業を実施する市町村の割合は、「千葉県子どもの読書活動推進計画(第二次)」の数値目標を達成しており、全市町村の実施を目指している。しかし、「子どもの読書活動推進計画」を策定している市町村の割合は、数値目標に達していない。今後は、子どもの読書活動推進事業のより一層の充実と市町村への働きかけを行っていく。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 14

事業名	通学合宿推進事業		
担当課・室・班名	生涯学習課・社会教育振興室・社会教育班	問合せ先(電話番号)	4168

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	異年齢の子どもたちが、地域の施設で一定期間寝食を共にしながら学校へ通うなかで、食事の準備や身支度等の日常生活の基本に関することを、子どもたち自身で行うことで、現在の子どもたちに不足している生活体験や、交流体験を行うことができる通学合宿を県内各地域で実施されるよう推進する。					
当初予算額(千円)	24年度	-	25年度	-	26年度	-
決算額(千円)	24年度	-	25年度	-	26年度	-
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<p>実施状況 市町村教育委員会 21市町村38事業(前年比4市増) 県立青少年教育施設 5所11事業(内5事業は市町村と共催) 事業総計 44事業(参加児童生徒数1,250人)</p>
--

(2) 事業の成果

<p>・「親がいなくても、自分たちでいろいろなことに挑戦して、ご飯をつくってよかった。これからも自分のことは自分でやっていきたい。」という参加児童生徒、「親元を離れ生活することは、子どもにとって自立、自律を体験するよい機会であると思います。」といった保護者の感想が寄せられた。 ・昨年度より事業数が7事業の増加となった。これまで検討中であった1市が新規に事業を実施し、事業の効果が認められたため、25年度は2つの事業を検討している。</p>

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>・事業効果は認められているものの、近隣に宿泊施設がなかったり、事業スタッフが確保できないなど課題が挙げられる。被災以降体育館などの利用も検討する例や、地域住民をボランティアとして実施する例など、先行事例を幅広く紹介していきたい。 ・高校の合宿所を利用した事例など特徴的な実践とともに、昨年の実施事例をホームページに掲載するなど情報提供することで、事業の普及に努める。</p>

4 委員意見

<p> </p>

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 15

事業名	「ちば・ふるさとの学び」活用推進事業		
担当課・室・班名	教育政策課教育立県推進室	問合せ先(電話番号)	4176

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度に改訂した「ちば・ふるさとの学び」と作成した「活用例」の周知と活用促進 ・学校がより活用しやすい教材となるよう、今後の統計資料等の時点修正を検討 					
当初予算額(千円)	24年度	0	25年度	0	26年度	0
決算額(千円)	24年度	0	25年度	0	26年度	0
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・指導室長会議や教員5年経験者研修などにおいて、改訂した「ちば・ふるさとの学び」や作成した「活用例」を周知した。

(2) 事業の成果

・「ちば・ふるさとの学び」「指導資料」「活用例」など、子どもたちが郷土学ぶための充実した教材を、会議や研修等で周知し、学校での活用促進を図った。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・より学校で活用しやすい教材となるよう、統計資料等の時点修正を行う。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 16

事業名	学童期からの生活習慣病予防事業		
担当課・室・班名	健康づくり支援課 食と歯・口腔健康班	問合せ先(電話番号)	2667

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援				
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保				
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保				
事業内容	子どもの頃から適切な食習慣づくりを推進するほか、ライフステージに応じた適切な食生活等について普及啓発を行うことにより、生活習慣病を予防し、生涯を通じた健康づくりを図る。				
当初予算額(千円)	24年度	2,154	25年度	1,053	26年度
決算額(千円)	24年度	1,689	25年度		26年度
財源内訳	県単(○)	1/2 国庫	県単(○)	1/2 国庫	県単(○)

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ①平成20年度～22年度に実施したモデル事業の成果を県内に普及啓発することを目的に、「しっかり運動 早ね 早おき 朝ごはん」の講演会やイベントを実施(5回:参加者709名)、作成したDVDの普及啓発に努めるとともに、養護教諭等を対象とした研修会等(5回:参加者939名)において、関係者への情報提供を行った。
- ②食育指導者研修会を各健康福祉センター毎に開催し、食育指導者に対し、地域の健康課題を踏まえた取組み事例の発表等職域間での連携を図り、地域全体で食育を推進した。(13回:参加者1,019名)
- ③外食における栄養成分表示やヘルシーメニューの普及などを推進した。
(平成24年度末現在 健康ちば協力店登録店舗数:1,021店舗)

(2) 事業の成果

「しっかり運動 早ね 早おき 朝ごはん」について、医師や教育者の立場からの講演会等を実施したことにより、子どもの頃からの適切な生活習慣の獲得と定着を図ることの重要性を保護者等に普及啓発し、「家族ぐるみの」の生活習慣病予防を推進することができた。(参考:別紙1 3月14日に行った講演会のアンケート結果)

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

学童期の子どもを中心に子どもを取り巻く大人(保護者等)に対して普及啓発を推進する等、ライフステージに応じた生活習慣病の予防を推進する。

4 委員意見

「しっかり運動、早ね早おき朝ごはん」講演会 アンケート結果

<別紙1>

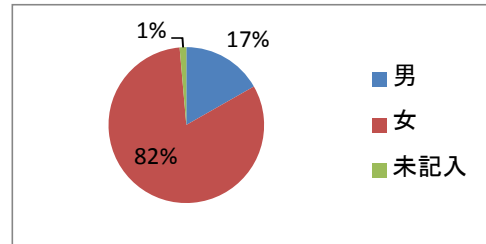
・実施年月日 平成25年3月14日(木)
 ・参加人数 185名
 ・回答者数 143名 (回収率:77.3%)

* 御自身について教えてください

1) 性別

男	24
女	117
未記入	2

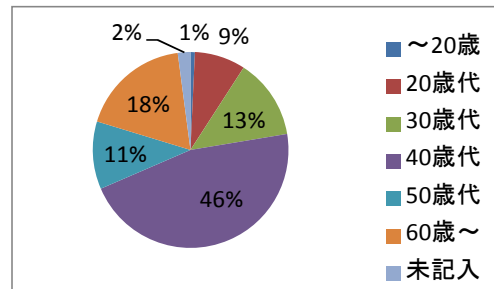
・8割が女性だった。



2) 年齢

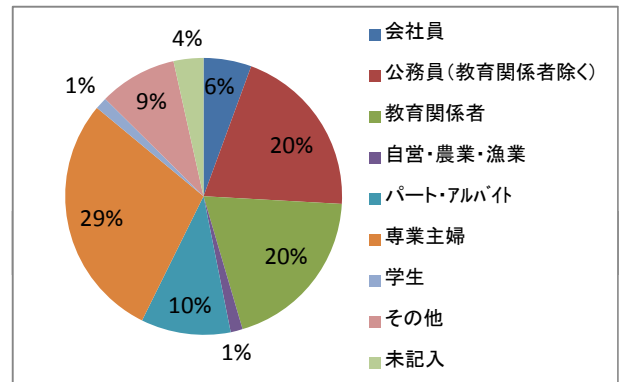
～20歳	1
20歳代	12
30歳代	19
40歳代	66
50歳代	16
60歳～	26
未記入	3

・半数近くが40歳代がだった。



3) ご職業

会社員	8
公務員(教育関係者除く)	29
教育関係者	28
自営・農業・漁業	2
パート・アルバイト	15
専業主婦	41
学生	2
その他	13
未記入	5



▼「その他」回答内容

無職	4	食育講師	1
医療関係・看護師	2	未記入	5
後期高齢者	1		

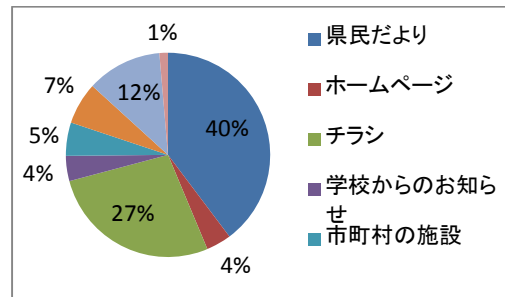
・専業主婦が3割。公務員(教育関係者を除く)及び教育関係者がそれぞれ2割だった。
 ・40歳代専業主婦が一番多かった。(24人:参加者の14.6%)

* 本日の講演会の内容についてお伺いします。

1) 講演会は何でお知りになりましたか。(複数回答可)

県民だより	60
ホームページ	6
チラシ	41
学校からのお知らせ	6
市町村の施設	8
知人・友人	10
その他	18
未記入	2

(うち、2つ選択した者:8人)



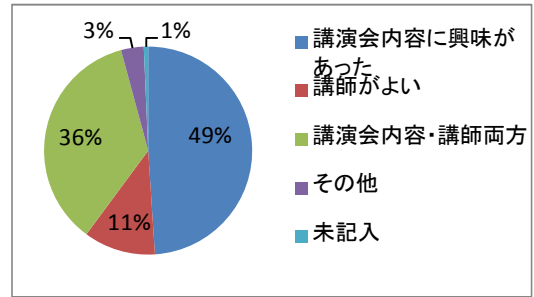
▼「その他」回答内容

職場(上司・同僚)ですすすめられた	6	食生活改善協議会からのすすめ	1
千葉日報・日経新聞	2	ちば食育サポート企業	1
栄養士会	1	講演会での配布	1
家族・親	2	メールマガジン	1
		未記入	3

・「県民だより」で知った者が4割を占めていた。
 ・「チラシ」で知ったものは公務員や教育関係者がほとんどだった。(32人:チラシで知った者の78%)
 ・「学校(幼稚園・小学校等)からのお知らせ」で知った者のうち教育関係者及び公務員が5人、看護師が1人だった。

2)講演会に参加しようと思った理由は何ですか。(複数回答可)

講演会内容に興味があつ	70
講師がよい	16
講演会内容・講師両方	51
その他	5
未記入	1



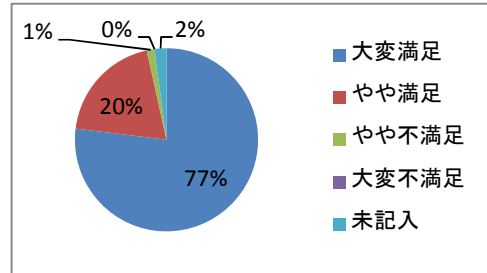
▼「その他」回答内容

・学校の給食問題に関心	1
・ボランティアより依頼	1
・親が連れて来てくれた	1

・「講演内容」に興味があつて参加した者が半数、「講演内容」と「講師」の両方を選択した者は4割だった。

3)講演の内容はいかがでしたか。

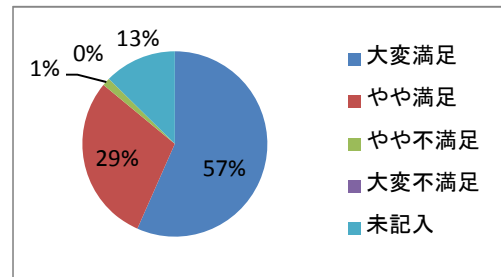
大変満足	110
やや満足	28
やや不満足	2
大変不満足	0
未記入	3



・講演の内容に満足いただいた方が97%だった。

4)トークディスカッションはいかがでしたか。

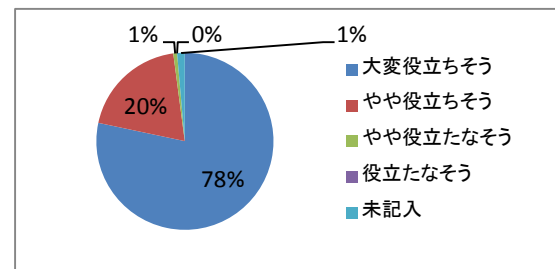
大変満足	81
やや満足	42
やや不満足	2
大変不満足	0
未記入	18



・満足いただいた方が9割近くいたが、未記入が1割いた。

5)本日の講演会は、役立ちそうですか。

大変役立ちそう	112
やや役立ちそう	28
やや役立たなそう	1
役立たなそう	0
未記入	2



・参加者のほとんど(98%)が、「役立ちそう」と回答した。

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 17

事業名	ちば食育活動促進事業		
担当課・室・班名	安全農業推進課・食の安心推進室	問合せ先(電話番号)	3092

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援 健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	県民が一人ひとりが自ら食育を実践することを目指した第2次千葉県食育推進計画を策定するとともに、市町村、関係団体、企業、ボランティア等と連携・協働した食育推進運動の展開を図る。					
当初予算額(千円)	24年度	8,000	25年度	5,811	26年度	
決算額(千円)	24年度	3,853	25年度		26年度	
財源内訳	県単()	一般財源	6,440	県単()	一般財源	4,551
		国庫	1,560		国庫	1,260

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- 県食育推進県民協議会の開催(2回)
- 第2次食育推進計画の策定
- 地域食育推進会議の開催(県内10地域)
- 地域食育推進大会の開催(県内9地域)
- 食育ボランティア・サポート企業情報交換会の開催
- 食育月間(6月・11月)における広報・啓発
- 「ちば食育ボランティア(第6期)」の募集
- 食育体験プラン事業の実施(2地域)

(2) 事業の成果

- 県食育推進県民協議会における協議を踏まえ、第2次食育推進計画を平成25年1月に策定しました。
- 地域食育推進会議において食育関係者間の連携・協働を図るとともに、地域食育推進大会(参加者約2,000名)を開催し、講演会やパネル展示などを通じて食育を広く周知しました。
- 食育ボランティアや食育サポート企業との協働に向けた情報交換会を開催し、事例検討などを行いました。
- 第6期の「ちば食育ボランティア」を募集し、4,935名(平成25年4月1日現在)を登録しました。
- 6月と11月の食育月間に県内各地で行われる食育イベントを通じて広報・啓発を行いました。
- 千葉・東葛飾の2地域で食育体験プラン事業を実施し、農林水産業体験や地産地消の料理などにより参加者に食育についての理解を深めてもらいました。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

食育について県民への周知は図られてきているところですが、それを行動・実践に十分結びつけていくことが課題となっています。

このため、食育を県民一人ひとりが実践することを目指した「第2次千葉県食育推進計画(キャッチフレーズ:ちばの恵みで まんてん笑顔)」に基づき、「グー・パー食生活」の普及啓発活動、食育ボランティアと食育サポート企業との連携強化のための情報交換会の開催、地域に根ざした取組を推進するための食育関係者による地域活動交換会の開催等を行います。

また、地域の特性を生かした市町村食育推進計画の策定を呼びかけるとともに、学校給食における地産地消の推進を図ります。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 18

事業名	いきいきちばっ子食育推進事業		
担当課・室・班名	学校安全保健課 給食班	問合せ先(電話番号)	4095

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	「ちばの食」を通じて子どもたちの健やかな体を育むとともに、規則正しい生活習慣を身につけさせるため、食育ノートの活用や体験型の食育活動を行うなど、学校における食育を推進する。					
当初予算額(千円)	24年度	2,840	25年度	2,530	26年度	
決算額(千円)	24年度	1,028	25年度		26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・県内5地区において、公立小中学校の管理職・給食主任・栄養教諭等及び共同調理場長・行政担当者等を参加対象者とした地区別研究協議会を開催し、各地区における食に関する指導の実践発表を行った。
 ・5地区に食育指導推進拠点校を指定するとともに、食育推進委員を委嘱し、24年度は各地区2校が授業公開等を通して食育指導の充実を図った。
 ・県立旭農業高等学校及び県立安房拓心高等学校を活動支援校に指定し、近隣小中学校と連携した食育活動を実践した。

(2) 事業の成果

・各地区の栄養教諭、学校栄養職員が中心となって研究協議会を運営することで、地域の実態に即した実践発表を行うことができた。
 ・農業・水産系高等学校の圃場や施設の利用及び職員の支援を受け、体験活動を取り入れた食育活動を行うことで、児童生徒の食に関する意識を高めることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・今後、より地域との連携を意識した施策を展開することでさらなる食育指導の浸透を図りたい。
 ・より地域や各学校の実態に応じた食育指導推進ができるよう、地域における食育指導推進事業及び高等学校と連携した食育活動支援事業のさらなる充実を図る。
 ・平成25年度の高等学校と連携した食育活動支援事業については、成田西陵高等学校及び鶴舞桜が丘高等学校を支援校とした事業を展開する。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 19

事業名	豊かな人間関係づくり推進事業		
担当課・室・班名	教育政策課教育立県推進室・指導課教育課程室	問合せ先(電話番号)教育政策課(4176)・指導課(4058)	

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	・児童生徒に、思いやりの心を育て、コミュニケーション能力の育成を目指した「豊かな人間関係づくり実践プログラム」が県内小学校において、積極的に展開されるよう、活用推進に努める。					
当初予算額(千円)	24年度	0	25年度	0	26年度	0
決算額(千円)	24年度	0	25年度	0	26年度	0
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ・小学校版プログラム(第3版)の改定
- ・初任者研修で、プログラムの活用についての講座を実施
- ・改定版プログラムの普及啓発用リーフレットを県内全小・中学校教職員に配付
- ・学校訪問等で、活用推進の指導・助言を行った。
- ・プログラムの実施状況調査を実施(年度末に集計)

(2) 事業の成果

- ・これまでの実施状況調査の中から吸い上げたプログラムの課題等を整理し、より活用しやすいプログラムを作成した。啓発リーフレットの配布や、初任者研修会におけるプログラム活用法についての講座の実施により、教職員にプログラムの活用についての意識付けができた。平成24年度の実施状況調査では小・中学校とも実施率が上昇した。
- ・指導主事会議等において、本プログラムの教育課程への位置づけについて統一を図ることができた。
- ・実施状況調査の実施時期を年度内に行うようにしたことや、調査内容を詳しくしたことにより、学校の実態がより分かりやすくなった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・プログラムの更なる活用推進に向け、平成25年度からは、初任者研修での講座に加え、新たに教員経験2年目の教員を対象とした「授業力アップ研修」を実施します。また、平成25年度は、県内の小学校5校・中学校5校をモニター校に指定し、改定版プログラムの効果的な活用方法の検討や、次期改定を見据えた課題整理を進めていきます。
- ・プログラムの更なる活用推進に向け、実施状況調査により学校の問題点を把握し、学校訪問等での活用推進の指導・助言に役立てます。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成24年度事業 評価シート

計画番号 20

事業名	男女共同参画センター「男女共同参画講座等」の開催		
担当課・室・班名	男女共同参画課 企画班	問合せ先(電話番号)	2372

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援				
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保				
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保				
事業内容	男女共同参画センターにおいて、男女共同参画への理解を深めるため、県民を対象に各種講座等を開催する。				
当初予算額(千円)	24年度	1,085	25年度	1,085	26年度
決算額(千円)	24年度	912	25年度		26年度
財源内訳	県単(○)	一般財源	県単(○)		県単(○)
	○				

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

○男女共同参画基礎講座(2講座)「男女共同参画基礎講座」「男女共同参画週間記念フォーラム」
 ○啓発講座(2講座)「介護予防講座」「すてきな生き方暮らし方講座」
 ○自己開発・人材育成セミナー(4講座)「女性リーダー養成講座」「夢をカタチに、女性再チャレンジ」「ワンランク上を目指すコミュニケーション講座(2回)」「支援者のためのデートDV防止セミナー」

(2) 事業の成果

女性だけでなく、男性、若年層にも参加しやすい講座を開設し、あらゆる人にとっての男女共同参画を意識した意識啓発をすることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

誰もが参加しやすい講座を開設したが、講座によっては、参加者が募集定員の3割弱にとどまってしまう講座ができてしまった。今後も講座内容やチラシ、広報の方法等を工夫し、男性、若者の参加を増やしていく努力が必要である。

4 委員意見